

橋梁技術発表会 及び 講演会

開催概要

日時	令和7年11月7日(金) 13:00~16:10
会場	吹上ホール 7Fメインホール 名古屋市千種区吹上2-6-3
申込	https://www.jasbc.or.jp/ ※申込はWebサイトのみです。
申込受付期間	9月1日~10月28日
継続教育	CPDS対象
資料	会場では配布いたしません。必要に応じて Webサイトより出力し持参願います。 10月31日掲載予定

《開催日一覧》		
地区	開催日	申込締切
東京地区	10/03(金)	09/23(火)
大阪地区	10/17(金)	10/07(火)
北海道地区	10/24(金)	10/14(火)
中部地区	11/07(金)	10/28(火)
九州地区	11/21(金)	11/11(火)
東北地区	12/04(木)	11/25(火)
(6地区開催ですが発表テーマは異なります)		



開会	13:00~13:05	開会の辞	(一社)日本橋梁建設協会
第一部 技術発表	13:05~13:40	技術発表(1) 曲線細幅箱桁橋の試設計について ~H29道示による設計の留意点~	設計小委員会
	13:40~14:15	技術発表(2) 鋼橋床版の劣化と保全について ~ コンクリート系床版の点検と補修・補強の留意点 ~	床版小委員会
	14:15~14:20	休憩	
	14:20~14:55	技術発表(3) ブライラ橋の建設工事報告 ~東欧最長の長大吊橋建設~	海外事業委員会①
	14:55~15:05	休憩	
第二部 特別講演	15:05~16:05	(調整中)	名古屋工業大学 特任教授 宮下 剛
閉会	16:05~16:10	閉会の辞	橋梁技術発表会 実行小委員会 委員長 本田 政樹

発表概要

細幅箱桁橋は、少数1桁橋に比べて高いねじれ剛性を有することから、曲線橋などさまざまな平面線形を有する橋梁に採用されています。従前では、 $R=100\sim300\text{m}$ 程度の比較的小さな曲率半径を有する細幅箱桁橋の場合、床版コンクリートと鋼桁の合成効果を見込まない、いわゆる非合成桁として設計される場合がほとんどでした。しかし、H29年改定の道路橋示方書・同解説Ⅱ鋼橋・鋼部材編では、コンクリート系床版を有する鋼桁の設計にあたっては、床版コンクリートと鋼桁の合成作用を適切に考慮しなければならないことが規定されました。ここでは、これまで非合成桁として設計されてきたこのような比較的小さな曲率半径を有する細幅箱桁橋について、床版コンクリートと鋼桁の合成効果の影響を考慮した試設計の結果を示すとともに、その留意点について説明します。

鋼橋のコンクリート系床版は、厳しい環境による経年的な材料劣化や輪荷重による繰返し作用など構造的な要因で、損傷を受けていることがわかっております。このような床版の損傷は、5年に1度の近接目視による定期点検で変状が明らかになりつつあります。これらの背景より、鋼橋におけるコンクリート系床版の種々の点検方法から損傷評価に関する手法を示し、補修・補強工法について、事例を示すとともに、その留意点について説明します。

ブライラ橋はルーマニア東部の主要都市であるブライラ市とドナウ川対岸のジラ地区をつなぐ国道の一部で、ルーマニア国内最長、EU域内では第3位の中央径間長(1120m)の吊橋です。本工事はルーマニア初の長大吊橋になりましたが、日本の高い技術力および上下部工一式のデザインビルドの利点を最大限に活かし、構造形式や施工方法など、品質・工程・コストの最適化を図り設計および建設を行いました。本工事の特徴は以下のとおりです。

- ・主塔：コンクリート主塔の施工にスリップフォーム工法を採用。コールドジョイント低減による品質向上および24時間施工による工程短縮。
- ・主ケーブル：日本では3例しか適用事例がないものの、海外では主流のエアスピニング工法による施工。
- ・制御運転システムの研究開発による架設効率の改善。
- ・補剛桁：現地造船所での製作による環境負荷低減。架設用ストランドジャッキのモジュール化による設備の軽量化と機動性向上を実現。